

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102512		
法人名	医療法人社団 春秋会		
事業所名	グループホームなんくり		
所在地	長崎市相生町9-7		
自己評価作成日	令和4年10月20日	外部評価結果確定日	令和4年12月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした開かれた施設を目指している。入居者様の健康や安全は当然の事として、住みよい暮らしを送れる環境づくりや活動を行っている。ご家族様との交流も定期的に行っており、関係性の構築や満足度の向上にも努めている。施設では、言葉遣いや接遇など不適切なケアになりがちであるため、適宜の研修会にて意識の改善や向上を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyosvoCd=4270102512-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyosvoCd=4270102512-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ法人の医療機関が隣接しており緊急時の対応もできるため、安心して生活を行うことができる。新入職員の研修体制も手厚く、入居者様の支援を確実に行えるようになるまで、先輩職員について研修を行っている。運営推進会議は、年間計画を出すことで、日程や参加者を明確にしている。また、コロナ禍において書面会議で開催することになっているが、持ち回りで各回ごとに違うご家族に参加してもらうことで、グループホームのことを知り、意見を出してもらう機会を作っている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年12月2日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にサービス提供を行うように心掛けている。	数年前に理事長が交代したことにより、理念の改定をし、すべての職員一人ひとりから意見を募り、法人内の医療機関、介護施設の双方に合った言葉選びに配慮し、何度も練り直して作成している。また、入職時には理念を理解してもらうよう、施設長やユニットリーダーより話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常であれば地域の行事や市民大清掃などに参加したり施設の催しに地域の方々を招いたりしている。	以前は、地域の清掃、地域の祭りに参加したり、法人主催で夏祭りを開催するなど、地域とつながりを持っていた。また、法人で自治会に入っており、自治会の集まりにも参加し、グループホームの話をしに行っていた。現在は、コロナ禍で、地域とのかかわりをほとんど持っていないが、自治会長、民生委員には運営推進会議の議事録を手渡しするようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者様の状況報告にて参加者の方々への認知症への理解を深めている。さらに勉強会として「認知症の理解」を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況報告を行う事で周知し、意見が上がってきた内容については現場に周知し、それに応えるようにしている。	コロナ禍で書面会議となっているが、入居者様ご家族が順番に書面参加できるよう年間計画を立てている。また、すべての入居者様ご家族に月1回のお便りに議事録も同封して送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や災害訓練に限らず、運営の事について密に連絡をとっている。	加算の算定の際の要件の確認の相談をしたり、運営推進会議においては市の担当者の意見を伺い、議事録を送付するなど、市とのやり取りも行われ、日頃から関係づくりにも努めている。また、現在も地域包括支援センターや長崎市の会議にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について重要事項説明書に記載されているように、地域密着型サービスにおいて身体拘束廃止が義務づけられていることを全職員が理解をしている。さらに勉強会を定期的に行い、意識の向上に努めている。	通常、玄関の施錠はされていないので、入居者様が間違っ外に出て行かないよう対策を工夫している。また、万が一に備え、行方不明者の捜索訓練を行って、マニュアル作成につなげている。身体拘束や虐待に関する研修は、年1回は必ず開催されており、どうしても身体拘束が必要となった際は、手順が明確となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会の機会を設けており、虐待が起こらないように意識づけを行うとともに、接遇等についても気になることについては声をかけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学びの機会を設けており、必要な入居者様には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や料金変更時には入居者様・ご家族様が理解できるよう詳しく説明するように心掛けており、不明な点があれば解決するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡をする際に困りごとや要望などお聞きするようにしている。施設全体にかかわることについては情報を発信している。	コロナ禍で面会が自由にできないため、月に一度は必ず電話連絡をするようにしている。その際、ご家族より意見を聞き出すよう努めている。その中でも、面会をしたいという声が多くあったため、法人内で話し合った結果、予約制でエレベーターとグループホームの玄関先で面会を実施できるようになった。コロナ禍前は、家族会を開催し、職員が中に入らず、ご家族だけで意見を出してもらう場を作っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務や業務内容、環境についての職員からの意見を積極的に聞くように心掛けており、必要があれば法人で協議するようにしている。	日頃から職員とのコミュニケーションを大事にしている。ユニットごとのミーティングには敢えて施設長は参加せず、意見を出しやすくしている。職員から残業についての意見が出た際、残業理由の精査、業務の効率化を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇格の機会を設けており、評価している。業務量の均等化や業務の効率化についても取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーナー職の方に認知症実践者研修の所得を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署も参加している委員会に所属して交流の機会を設けている。さらにGH連絡協議会に参加し必要な情報があれば現場に発信している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から自宅への面談に行き、本人様の様子やご家族からの情報を収集し疑問や不安について解決できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて入居について「今後の暮らしについての要望」などもお聞きしている。ご家族の入居に際しての心苦しさを不安な気持ちに寄り添うように声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様がどのような暮らし望んでいるか把握し、それに対し施設がどのように支援していくか度々検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	初めての環境に少しでもなじんで行けるように支援をし、さらに他入居者様とも交流できるような環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居当初は入居者様だけでなく、ご家族も不安があるため、入居してからの様子を連絡している。開かれた施設であるため、いつでも面会が可能なことを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大事にしてきたことや場所・物など入居前から聞き取りを行い、必要があれば支援出来る体制を整えている。	入居前にはご家族や本人から聞き取りを行い、グループホームでできることを検討し、生活環境を整えるよう努めている。また、ご家族とのかかわりが少ない方については、職員が寄り添い、寂しさを感じないように配慮している。コロナ禍前は、「ふるさとめぐり」として、以前の自宅に行き、近所を回ったり、以前の知り合いに会ったりする機会を設けていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や活動する共通フロアでの交流がもてるよう座席配置に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了した後もいつでも相談できる場所として関係性を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまで暮らしてきた自宅や本人様の生活歴を把握するためにアセスメントしている。聞き取りが難しい場合はご家族や関係者から聞き取り、把握するようにしている。	入居者様の思いや意向は、担当者だけに限らず他職員でも傾聴し、業務日誌の記録内容やスタッフミーティングで共有している。言葉に言い表せない方には、仕草や表情で思いをくみ取り支援を行っている。入居者様とご家族の思いや意向は介護計画に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのケアマネへの情報収集もしており、基本情報などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の望む暮らしを実現できるよう、ケアの統一に努めている。入居者様の様子を介護日誌や業務日誌への記入することにより情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の作成には計画作成担当者が中心となり、ニーズや課題の把握をしている。さらに職員間で協議しモニタリングを行っている。	入居前は、ケアマネジャーまたは施設長が自宅へ訪問し、自宅の雰囲気必ず確認している。計画書は、ケアマネジャーが計画案を作成し、担当者がモニタリングと評価を行い、スタッフミーティング内で他の職員が再評価する流れで作成され、約3ヶ月毎で見直しを行っている。施設での生活を維持するための支援内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、受診記録など個別記録を行っており、職員は情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体や精神状態の変化に柔軟に対応し、医療への相談やサービス内容の見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を把握し、豊かで楽しみのある生活を送るのに必要な物は活用するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛かりつけと変更する場合、初診では必ずご家族にも同席して頂き、主治医への顔合わせとこれまでの経過をお聞きし、情報共有や関係構築に努めている。	訪問看護とは24時間連携が取れ、週一回のラウンドで、職員が入居者の現状を報告し看護師が容態を確認している。大半の入居者は、隣接する母体の医療機関へかかりつけ医を変更し、適切で早急な対応ができる環境になっている。歯科治療が必要な方には、協力歯科医が週一で往診し外来と同じ治療ができ、職員の日々の細かい観察で外部受診が必要と察した際は、家族様へ連絡を取り受診対応を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の体調の変化や気づきを外来や訪問看護へ報告し、必要があれば受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、サマリーや基本情報など情報提供を早急に行い、地域連携室の担当ソーシャルワーカーとも密に連絡をとり、情報収集をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にACPIについて説明し書面を渡している。そして事業所が対応できる範囲を説明している。もし重度化した場合には必要であればご家族が主治医と面談できるようにしている。	入居時に、最終段階における医療行為(苦痛緩和・心肺蘇生・人工呼吸・栄養や水分補給等)の希望をチェック方式で確認をとり、修正撤回がいつでもできるようになっている。グループホーム内で、看取りは行ってはならず、体調の変化により医療機関への入院や他の介護施設への転居となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはオリエンテーションにて実践できるように訓練している。インシデント・アクシデントレポートを配布し情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練や自然災害の訓練は定期的に行い、職員の意識向上を図っている。通常は法人内だけでなく地域の消防分団や自治会の方にも訓練に参加して頂き、協力体制をとっている。火災については、消防設備など備えている。	窓には排煙窓が設置され、防災ラベルがついたカーテンを取付けている。毎月、避難誘導の方法、消火設備及び発電機の使用の確認をしている。年2回の避難訓練は、コロナの感染拡大により書面会議(報告式)で行い、消防署等の関係機関から意見や質問をもらい議事録を作成している。	災害に備えグループホーム単独で、入居者様と職員の人数に担った水と数種類の非常食等をユニット毎に備蓄管理することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある言葉遣いやトイレ、居室は使用中はドアを必ず閉めるなどプライバシーの保護は忘れがちになるため、その都度職員間で声掛けを行うようにしている。	入居者様には、目上の方を敬う気持ちを持った言葉遣いや、支援が必要な時でも意思を確認し支援を行っている。個人の尊重やプライバシーについては、研修により職員間で共有し、不適切な声掛けがあった際は、職員全員に注意喚起を促している。広報誌の写真掲載については、家族への同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員目線での生活にならないように、入居者様への自己選択を忘れないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先のサービスではなく、その方のその日の過ごし方の希望に沿ったサービス提供を行うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する機会がある時には、可能であれば好みをお聞きしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がしやすい様に環境を整え、食べやすい様に食事形態を工夫している。	現在の委託業者を選択した理由は、季節の食材を使った料理や時々全国の郷土料理を工夫して提供しているからである。一般食とムース食を一日三食配食され、職員がレンジや湯せんで温め、食事形態に合わせて支援している。プリンなど簡単調理ができる、おやつレクを企画し実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要摂取量を把握し、それに見合った総エネルギーや水分量になる様に計画的に提供している。必要がある方は管理栄養士の栄養指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の衛生を保持出来るように、磨き残しがないか確認を行い、必要がある方には口腔ケアを支援している。必要がある方は、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し排泄の失敗を減らすようにし、オムツの使用量の負担へも軽減できるようにしている。	入居している方の1割は布パンツ、大半がリハビリパンツを使用しており、トイレには、排泄パターンに合わせて誘導している。誘導される方だけではなく、自立した方も、排泄毎に性状などの記録を残し、水分摂取量は、ドクターが指示した方のみ管理している。トイレに入った時はドアを閉め、ノックして合図し、プライバシーには十分気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	口腔の状態や嚥下の様子、排便の形状や頻度について把握し、内服薬のみでなく飲食物の提供の工夫や運動の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員都合による入浴にならず、入居者様の希望に沿ったものになる様に心掛けている。	一日3人ずつ、入浴支援をしている。入居直後は、夕方に入浴できるように、生活リズムに合わせた支援を行っている。入浴を拒否された場合は、日にちや時間の変更、また職員を替えたりして対応している。シャンプーなど施設が準備しているものは、了解を得て使用しており持ち込みは今のところはない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を把握し、自宅での生活に沿ったサービス提供を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や塗布薬などについての効能や副作用について理解し、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やこれまでの環境など把握し、それに沿ったサービス提供を行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外に出かける機会を設けるようにしており、その際は希望を募っている。必要であれば、ご家族にも協力を頂き、支援している。	コロナ禍前は、花見や美術館また外出に出かけていたが、感染拡大により外出支援が困難になっている。外出に代わるものとして、DVDを使った集団体操、YouTubeの歌体操、月一でイベントを行い、グループホームで楽しめることを工夫し支援している。	運営推進会議にて「少しの時間でもいいので外出させてほしい」とご家族からの意見がでている。感染対策を考慮して外出支援を企画し実行することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金を持つことは行っていない。買い物などされる方は職員の付き添いのもとで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方、そうでない方も家族などと話せるように取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく利用できるように環境整備を行っている。さらにフロアの飾りなど季節を感じられるように工夫している。	共用スペースは職員が清掃し、消毒や換気による感染対策を行っている。フロアでの温度設定は、入居者様に合わせて設定され職員による季節の飾りつけなどで居心地が良い空間に整備されている。日中は、個人レク(キャップパズルや計算ドリル)等をして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアでは気の合う方同士が交流を持てるように座席にも配慮している。一人で過ごしたい場合は居室にて過ごせるように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から居室をどのように配備するかは、ご家族と話し合っ決めていくようにしている。なるべくこれまでの自宅に似たような環境が作れるように配慮している。	居室への持ち込みは、食べ物以外制約はなく、入居者様や御家族の希望に沿っており、中には冷蔵庫やテレビを持ち込まれる方もいる。部屋は整理整頓され、ポータブルトイレにはカバーが掛けてあった。清潔感があり安心して生活できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた、決められた空間を入居者様が動きやすく理解しやすい環境に整えている。		